

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立七栄小学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それらの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

*出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (* 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学の基本的な概念等を柱とした内容をバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

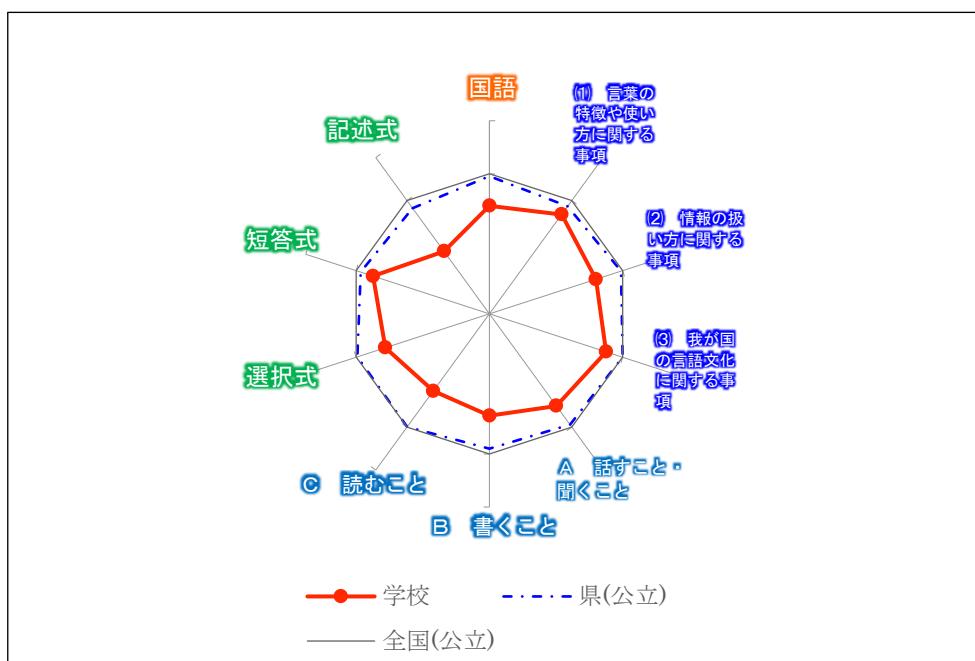
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



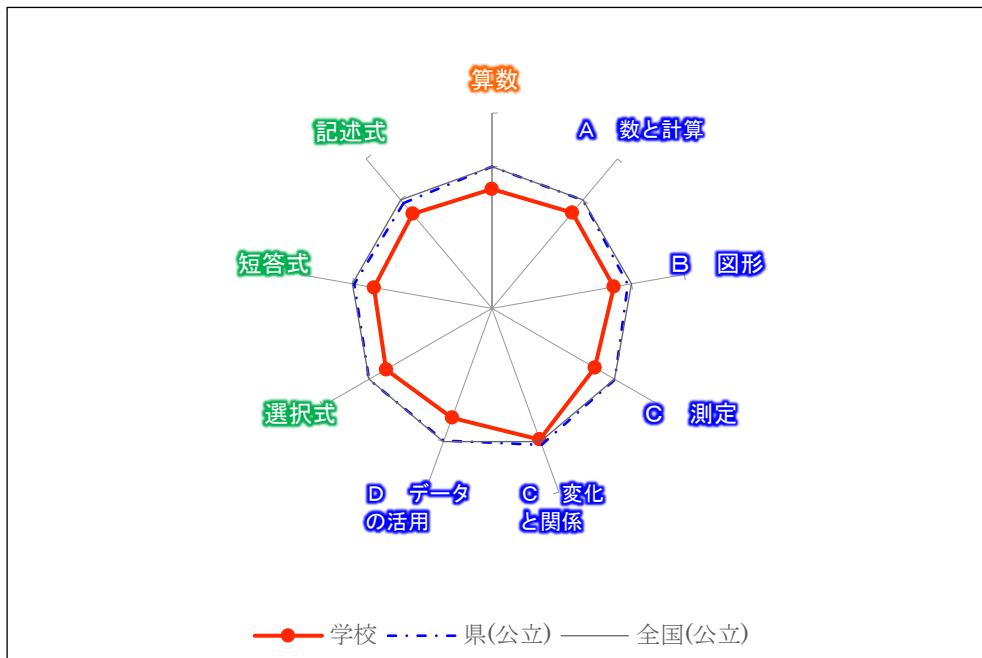
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均に比べ正答率がやや低いです。
- 昨年度と同様、「記述式」の問題での正答率が全国や県に比べ、大きく下回っています。無解答率も全国や県の無解答率に比べ、高いです。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、物語の表現の効果を考えたりすることに課題があります。
- 「書くこと」の領域では、全国や県に比べ、正答率は低いですが、平均正答率の相対値（全国を100とした場合の本校の値）が5年度に比べ、（74.9%→82.7%）と結果が向上しています。しかし、昨年度と比べると下がっており、（86.0%→82.7%）まだまだ指導の余地があります。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかを見る問題の正答率は県や全国に比べやや下回りました。さらに、無解答率が全国や県に比べ高かったので、この点に課題があります。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習やミニテストなどを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導してまいります。
- 「書くこと」については、国語だけでなく各教科の授業において、書く場面を設定し、どのように書けば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。
- 以前より書く活動を意識的に取り入れ、書く場面を設定したことにより、「書く」ことに対して、抵抗感が下がってきてています。引き続き、いろいろな場面で書く活動を取り入れ、書くことに慣れさせるとともに、書く内容についても目的や意図が伝わるよう指導をしてまいります。

算 数



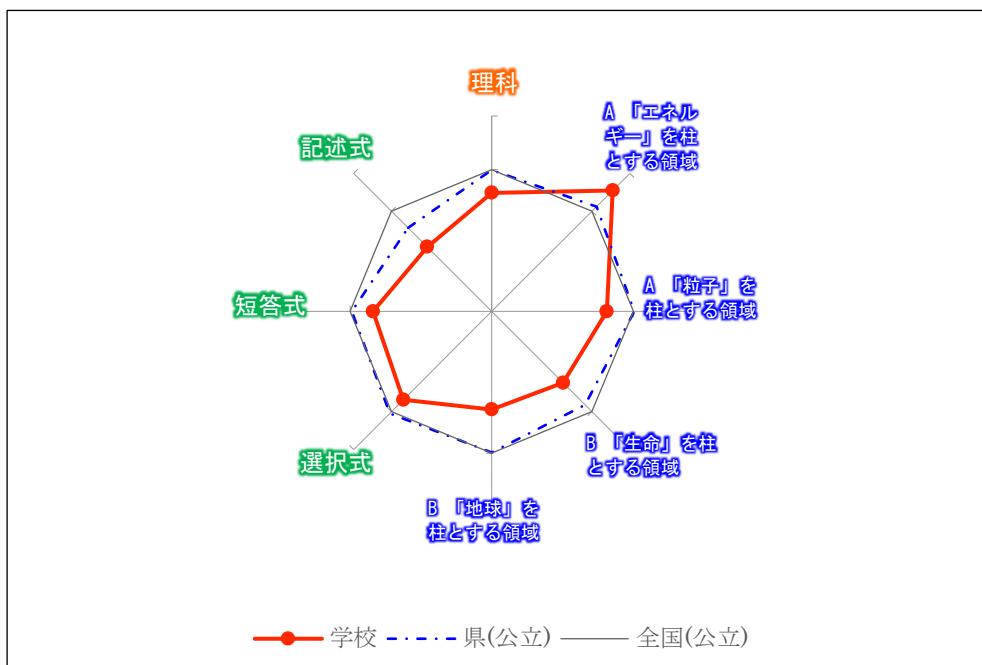
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均に比べ正答率が低いです。
- 国語と同様、記述式の問題の正答率が下回っています。また、無解答率も高い傾向にあります。
- 学習指導要領の領域「数と計算」「図形」「データの活用」において全国・県の正答率を下回っています。復習を行い、学習内容を確認する必要があります。
- 「変化と関係」については、県をやや上回り、本校で比べると、昨年度より 26.7 ポイントも伸びました。
- 簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶことができるかどうかを見る問題は、正答率も低く、無解答率も高いことが分かりました。
- 昨年度は無回答率 0% で全員が解答することができた問題でしたが、今年度は全ての問題において無回答がありました。最も多いもので記述式の問題で 3 割以上が無回答のものがあり、課題があります。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や 100 マス計算の練習などを通して、基礎・基本的な計算力が確実に身に付くように努めてまいります。
- 記述式の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くようにノートに自分の考えを記述したり、学習内容のまとめや振り返りを自分の言葉で記述させたりするなどして指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでいきます。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。問題文からわかるなどを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるよう指導してまいります。

理 科



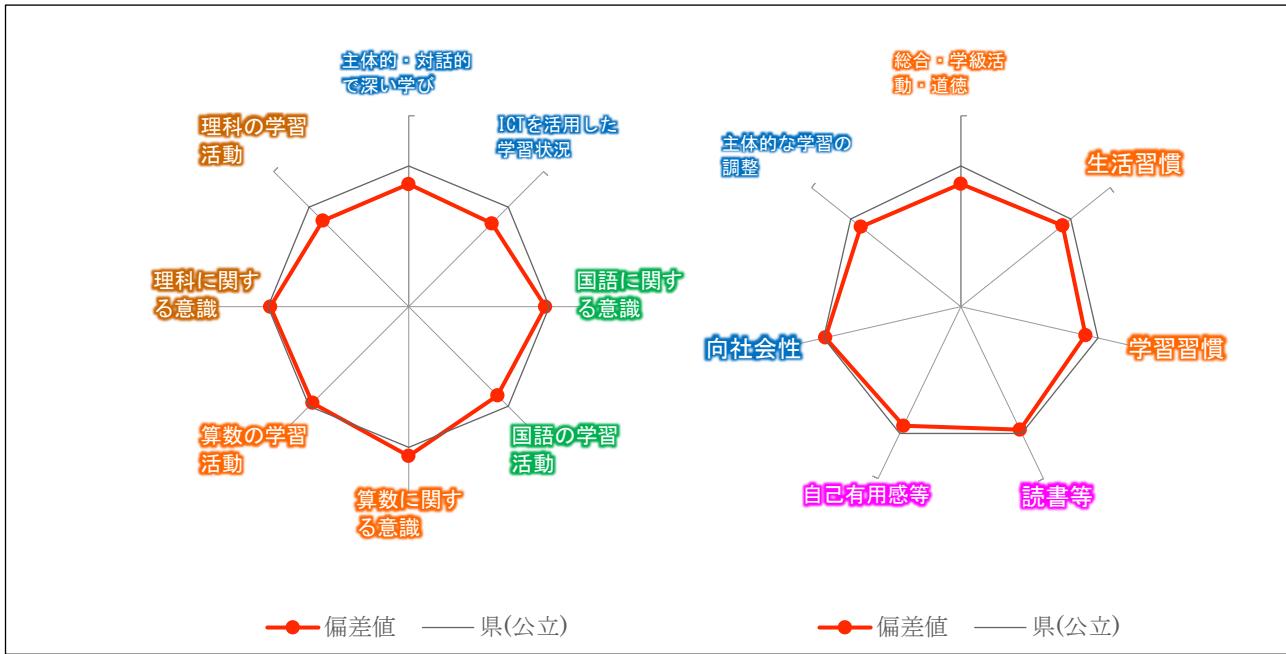
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均に比べ正答率が低いです。
- 国語、算数と同様、記述式の問題の正答率が下回っています。また、無解答率も高い傾向にあります。
- 学習指導要領の領域「粒子」「生命」「地球」において全国・県の正答率を下回っています。復習を行い、学習内容の確認をする必要があります。
- 「エネルギー」については、全国、県を上回りました。特に電磁石や乾電池の問題において高い正答率が得られました。電磁石の問題は9割近い正答率でした。
- 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかを見る問題では、県平均より20ポイントも正答率が低く、「粒子」の領域を苦手としている児童が多いことが分かりました。

【改善方策等】

- 理科においても観察や実験を行った際に、様子や結果、考察を書く活動を多く取り入れ、授業を開展してまいります。観察記録や考察を抵抗なく、書くことができるようノート指導を丁寧に行い、書く活動自体に慣れさせていきます。
- 「エネルギー」の領域の正答率が高かったことから、実験や観察等の体験学習を重視し、できる限り体験的な授業を開展してまいります。また、実験結果からのまとめを丁寧に行い、苦手意識のある分野（特に粒子の領域）については繰り返し学習内容を振り返りながら確認してまいります。
- グループを使った話し合いなどの活動を多く取り入れ、国語科の話す聞くの力を伸ばすと共に、自分の考えを相手にしっかり伝える場面を設け、抵抗感を少なくしてまいります。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「朝食・早寝・早起き」を行っているかなど、生活習慣に関する質問については、全国平均を下回る回答結果でした。また家庭学習等学校外での学習時間を問う質問についても全国平均を下回りました。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っており、前向きな児童が多いことが分かりました。
- 「読書は好きですか」では、全国平均を上回り、全校で取り組んでいる朝の読書や市で取り組んでいるブックトリップの効果が表れていることがわかりました。
- PC・タブレットなどのICT機器を活用することについては苦手意識がなく、楽しみながらきちんと活用できていることが分かりました。日々の学習の中での活用が身に付いてきました。

3まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。また、授業はもちろんのこと、学校生活全般において、ルールや約束を守り、皆でより楽しい学校生活が送れるような雰囲気を作り、規律正しい生活ができるようにしていきます。

家庭での生活・学習習慣と学力に関連があるという調査結果があります。ご家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身につけられるように、引き続きご支援とご協力ををお願いいたします。